

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400898		
法人名	有限会社バストケアサービス		
事業所名	グループホーム高丘		
所在地	〒042-0955 函館市高丘町5-3-8 (電話) 0138-36-7772		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成21年5月13日

【情報提供票より】 (平成21年 2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	27,000円～36,000円	
敷金	有() 円		無()	
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (2月20日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	71 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	函館渡辺病院 釜田歯科病院 はこだてペインクリニック 訪問介護ステーション西堀
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、函館短期大学と隣り合わせに位置し、下宿業を営んでいた2階建ての建物を改築した、明るく広々とした造りとなっている。管理者は、「1日3回ほめ言葉、ほめる時は心から」などと、より良いケアを旨とする。日々心がまえやアイデアなどを提示している。介護福祉士、ケアマネジャーなどの資格を取得した職員が多く、職員同士がコミュニケーションをとる機会を多く作るようにしている。両ユニットがひとつの家庭であり、住んでいる人は皆家族であるという理念に基づき、利用者は、思いのまま楽しく暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題であった夜間入浴については、勤務体制を調整することにより改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義とねらいについてチームで話し合い、全職員が自己評価に取り組んでいる。自己評価は、日々のケアの見直しや改善点に気づく機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、外部評価の結果を議題とし、改善課題なども報告している。また、町内会から行事の誘いについてや、家族会の要望から、感染症の話を保健所職員から聴く機会を設けるなど、幅広い議題を協議し、双方向的な会議となるよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来訪した時には、気軽に声がけをし、何でも話し合えるような雰囲気づくりを心がけている。また、運営推進会議の中で家族会からの要望を積極的に聴くなど、家族の意見、苦情を取り入れる努力をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	事業所主催の敬老会を町内会館で催し、地域の住民と一緒に祝っている。夏祭りや七夕には、休憩所として事業所を提供するなど、利用者子ども達と一緒に行事を楽しむ取り組みをしている。隣接する大学の福祉学科に在籍する学生が、実習をかねてボランティアに來たり、ヘルパー養成講座の実習生を受け入れるなど、地域との交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「個の尊厳」、指針を「なごみ」とし、事業所独自の理念を作成している。地域住民との交流を実施しているが、地域密着型サービスとしての具体的な理念を掲げるまでには至っていない。	○	地域密着型サービスの役割を理解し、日々のケアの実践を具体的にイメージした理念を掲げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議、ミーティングで理念を復唱し、共有している。トイレ、台所、廊下など職員が常に目のふれる所に理念を提示し、実践に向けて、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所主催の敬老会を町内会館で催し、地域の住民と一緒に祝っている。夏祭りや七夕には、休憩所として事業所を提供するなど、利用者と近隣住民が行事を共に楽しんでいる。隣接する大学の福祉学科に在籍する学生の実習や、ヘルパー養成講座の実習を受け入れるなど、地域との交流は盛んに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、自己評価の意義とねらいについてチームで話し合い、評価を実施する意義を理解し、日々の見直しや改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価を議題とし、改善課題について報告している。町内会から行事の参加要請への協力や、家族会からの要望で、感染症について保健所職員の話聴く機会を設けるなど、幅広い議題で双方向的会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と情報提供や意見交換をする機会をつくり、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りは2ヶ月ごとに発行し、家族から了解を得て写真を添え、日常の様子を伝えている。また、職員の異動についても、併せて報告している。金銭管理は、個々の希望に応じて対応し、領収書を添えて毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で家族会の話聴いたり、面会時には近況報告し、意見、苦情を聞くなど、気軽に話し合える雰囲気作りに心がけている。家族からの意見、要望は、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、毎年職員の新年会を開催したり、2班に分けて一泊研修を実施するなど、職員同士の交流の機会を設け、離職を抑える努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の育成に努め、介護福祉士、ケアマネジャーなどの資格取得を促している。また、事業所としても、職員が研修会に参加しやすいよう、積極的に取り組んでいる。研修に参加した職員による報告会も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設したグループホームや他同業者との交流、勉強会、相互訪問などで意見交換するなど、同業者との交流をサービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者の考えや思いを聞き取り、本人、家族が納得した上で、利用開始日を決定している。職員は、できるだけ早く利用者が雰囲気になじめるように、声かけなどに工夫をしている。また、利用者同士でも早くなじみ、仲良くなることができるよう、雰囲気づくりにも工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を一緒に生活する家族として、かつ、人生の先輩として敬っており、支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、頻繁に外出をする利用者には、送る言葉、迎える言葉をかけている。意思疎通が困難な時は、日常のきめ細かな観察の中で、本人の意向を把握し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるために、本人、家族からの要望を聴くなどの、アセスメントをしている。課題となることをスタッフ全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回カンファレンスをし、介護計画について意見交換を行い、検討している。介護計画の期間は3ヶ月ごとであるが、必要に応じて家族の了解を得ながら、随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊、理美容、受診などの支援を行っており、一人ひとりの希望に応じて、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が訪問診療をしている。また、本人、家族の希望で、かかりつけ医の受診も可能であり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化看取りに関する指針を説明して、家族から確認を得ている。かかりつけ医等の医療機関と話し合うなど、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、家族の同意のもと個々に対応している。職員は、プライバシーを損ねることがないように配慮された言葉かけや対応がなされている。記録はロッカーに適切に保管し、取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、表情や状態の変化を見極め、臨機応変に対応し、利用者の希望に沿った支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は両ユニット同じにしており、利用者は個々の能力に合わせ、分担しながら調理などを行っている。味付けチェック、盛り付け、オシボリたたみなど、利用者のできる範囲を見極め、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は自由で、利用者の希望に応じて、夜間入浴の支援もしている。入浴を拒否する利用者には、家族の了解のもと清拭をするなど、強制することなく入浴を楽しむ支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人との会話や、家族からの聴き取りで生活歴の把握につとめ、得意なことや趣味などをくみ取り、楽しく生活ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、声がけて、買い物、散歩など、できる限り外出の機会を作り、戸外に出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中施錠していない。居室に鍵を掛けると安心する利用者には、家族と相談の上、鍵をとりつけている。夜間は、防犯のため鍵をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施している。しかし、地域住民に参加を呼びかけていないため、協力を得るまでには至っていない。	○	職員だけで誘導することの限界を具体的に確認し、今後、地域住民の参加と協力を得るよう働きかける取り組みが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は、一日最低1000mlを確保している。一人ひとりの状態を医師と相談し、きざみ食にしたり、便秘予防に玄米食を採り入れるなど、栄養のバランスにも工夫し配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はバリアフリーが完備し、不快な音や臭いもなく、広くて明るい。台所のカウンターも、ゆったりとして使い勝手がよく、工夫されている。居間の壁には、利用者が手作りした手芸品を飾り、季節感を表している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、在宅当時の日用品や調度品があり、家族の写真を飾るなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。